

EURO DAMPER



室内から自由自在!

壺林貴也

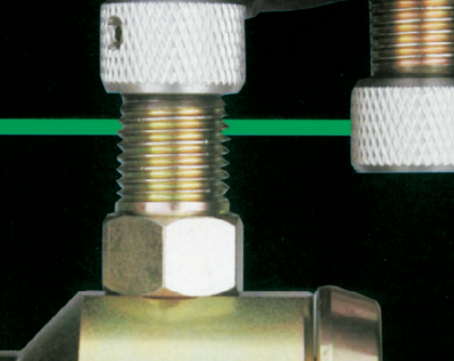
「つばはやし・たかや」 本誌ではもうお馴染みのレーシングドライバー＆最近「走り」を主眼としたモータージャーナリストとしても活躍。クレバで正確無比なドライビングが身の上。様々なチューニングパーツの開発にも携わっており、その審美眼はかなり鋭い。

運転席で座ったまま減衰力調整が可能な「EDFC」、EURO DAMPERシリーズ全製品がこの「EDFC」対応している。



き点だ。構造は、単筒式に比べオイル容量を多く確保できる複筒式を採用。そして低速域の減衰力の落ち込みを防止する。レールとレールを鍛え上げたマクロ・スピード・バルブ(M.S.V.)を採用している。路面からの微細なインフォメーションを確実にキャッチできる機構を備えてきた。さらに、3年30000kmの製品保証を付けているあたりは、この商品に対するティンの自信の表れだろう。

今回は、アウディ・TTクーペ・8Tとアルファロメオ・147 T2.0の2車に試乗した。TTクーペは、純正ホイールが16インチなのに対し、試乗車は2サイズアップの18インチホイールを装着していた。タイヤの扁平率が純正の55に対し40になっている。扁平率が低く、路面からの微細なインフォメーションがそれを感じてしまう。純正並みの乗り心地を確保して欲しい。純正とワイヤリングをハードに攻めたときに、ロール量が大きく振動が激しくなり、コーナーリング中のフルスロットル時に、フワフワとしたランバーの減衰不足が

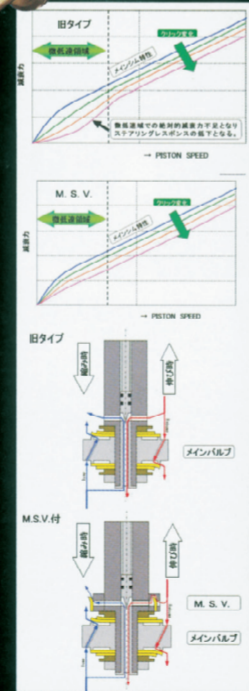


設計はC.A.D.で

ティンでは、ショックアブソーバーの開発・設計はC.A.D.を使ったフルコンピュータで行なわれており、作り手の理想が極限まで追求されている。

その秘密はM.S.V.

M.S.V.の採用により、オイルバイパスが設置され、今まで難しかった低速時の減衰力調整が可能になった。そのおかげでレスポンスとトラクション性能が向上しているのだ。



攻め込んでいくほどに安定感の増す感覚は好ましい。3年3万kmという、アフターパーツとしては異例ともいえる長期保証がつくのは驚きだ。

まず、高速安定性に優れた純正の特徴を残しつつ、10のスポーン性を持たせ、ロードダウンをしても快適性を損なうことなく、高い操縦安定性を確保している。さらに、純正のホイールからインフラップするユーザーもいるのだが、開発段階からインフラップサイズのホイールでテストを重ね、セッティングを行っているというから掛け目はない。

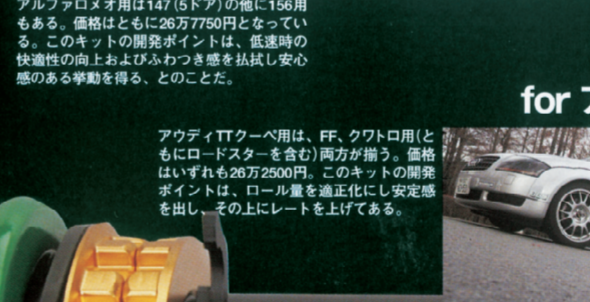
スベックは、ネジ式車高調整機能が備わり、1WAYの16段減衰調整機構を採用。その減衰調整を、ボンネットを開けると車内から手軽に行える。エレクトロニック・ダンピング・フォース・コントロール(EPC)に対応しているのが特長すべ

輸入車向けTEINサスペンション新発売! このクオリティは Wじゃない

サスペンションメーカーとして有名なティンが、同社初となる輸入車向け車高調整式ショックアブソーバー&スプリングキット「EURO DAMPER」を発表した。これは、様々なモータースポーツで活躍する同社が、スポーツ性と快適性を追求して世界中を走り込んで作り上げたキットだ。



for アルファ147



for アウディTT



アルファロメオ用は147(5ドア)の他に196用もある。価格はとも26万7750円となっている。このキットの開発ポイントは、低速時の快適性の向上およびふたつき感を払拭し安心感のある乗り得る、このことだ。

アウディTTクーペ用は、FF、クワトロ用(ともにロードスターを含む)両方が揃う。価格はいずれも26万2500円。このキットの開発ポイントは、ロール量を適正化し安定感を出し、その上にレートを上げてある。